

令和6・7年度佐賀県教育委員会研究指定
小中連携による学力向上推進地域指定事業（2年次）



●研究主題●

「小中連携による
自ら学び続ける児童生徒の育成」

～対話活動を通して、思考を深める算数科学習指導の工夫～



令和7年度
有田町立大山小学校

目 次

I	研究の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	2
1	研究の概要	
2	研究の計画	
II	学習指導案・・・・・・・・・・・・・・・・	17
	6年1組 「比とその利用」	
	2年1組 「かけ算（1）」	
III	学年・専門部のまとめ・・・・・・・・	29
	学年部のまとめ（上学年・下学年）	
	専門部のまとめ（スキルアップ部会・環境部会）	
IV	研究同人・・・・・・・・・・・・・・・・	37

I 研究の構想と概要

研究の構想と概要

有田町立大山小学校

1 研究主題名

小中連携による、自ら学び続ける児童生徒の育成(2年次)

～対話活動を通して、思考を深める算数科学習指導の工夫～

2 主題設定の理由

新学習指導要領では、汎用的な能力の育成を重視する世界的な潮流を踏まえつつ、学校教育が長年育成を目指してきた「生きる力」をより具体化し、資質・能力が三つの柱に整理された。三つの柱とは、「生きて働く『知識・技能』の習得」、未知の状況にも対応できる『思考・判断・表現力等』の育成、「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」である。これらの資質・能力を身に付けるために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から質の高い授業、学習活動を位置付けていくことが求められている。このことから、自ら学習対象や集団に働きかけ、よりよく問題を解決しながら知識を獲得し、各教科等で学ぶ意義を実感していく資質・能力を身に付けさせる本研究は意義深いと考える。

昨年度から「対話活動」の研究を始めたことで、対話活動を通して学ぶことに楽しさを感じた児童が増え、少しずつ成果が出始めた。

しかし、アウトプットができて、それが正答につながらない児童も見られ、さらに考えを深めるための手立てが必要だと考える。

そこで今年度は、「小中連携による、自ら学び続ける児童生徒の育成～対話活動を通して、思考を深める算数科学習指導の工夫～」の2年次として研究を行い、児童が自ら学ぶことに関心をもち、いきいきと学びに向かう授業実践を深めていく。その中で、特に対話活動を通して、児童が自分の考えや集団の考えを広げたり深めたりする姿をめざしていく。

3 研究主題・サブテーマの考え方

「自ら学び続ける児童の育成」とは

「自ら学び続ける児童の育成」とは、学習内容や問題場面、解決方法等に関心をもち、見通しをもって学習に取り組み、自らの活動を振り返って、次の学習や生活場面に活かしていく姿が見られる授業と考える。

「対話活動」について

「対話活動」は、課題意識を共有し、目的をもって行わなければならない。本研究における「対話活動」では、学年の実態に合わせた対話活動の形態の工夫を取り入れ、具体物、図、言葉、数、式、表、グラフなどを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったり、学び合ったり、高め合ったりするなどの学習活動を行う。

4 研究の目標

主体的・対話的で深い学びを通して、自ら学び続ける児童を育成する。

5 研究の仮説

- (1) 「西部型授業」、「授業づくりのステップ1・2・3」を全職員で進めていき、既習事項や既有体験などを意識させた授業を行っていけば、進んで自らの考えを構築しようとする力が養われるであろう。
- (2) 自分の考えを持ち、互いに考えを高め合ったり、広げ合ったりするような場を設けていけば、進んで表現しようとする力が養われるであろう。
- (3) 児童の家庭学習の実態や授業に関する意識調査や学力状況の調査・分析などを基にして、家庭や地域に発信・連携すると共に、学校内の学習環境の整備を行えば、学力の基礎が身につくであろう。

6 研究の内容と方法

ア 授業づくりと理論研究

- ・ 西部型授業を基本とした自分の考えを構築し、表現するための授業づくりや教材研究等について理論研究を進める。
- ・ 学年に応じた対話活動の観点を明らかにして系統化を図る。

イ 児童の実態把握

- ・ 授業や家庭学習に関する児童の意識・実態調査を行い、授業づくりや宿題の在り方等について検討していく。
- ・ 学習状況調査等の分析を行い、成果と課題を意識した授業づくりにつなげていく。

ウ 家庭や地域との連携

- ・ 家庭に学習だよりを発行し、家庭や地域との連携を図り、児童の学習環境を整える。
- ・ 校区内の小学校、中学校と情報交換会を実施し、学力向上に向けた話し合いをする。

エ 算数の学びを支える環境づくり

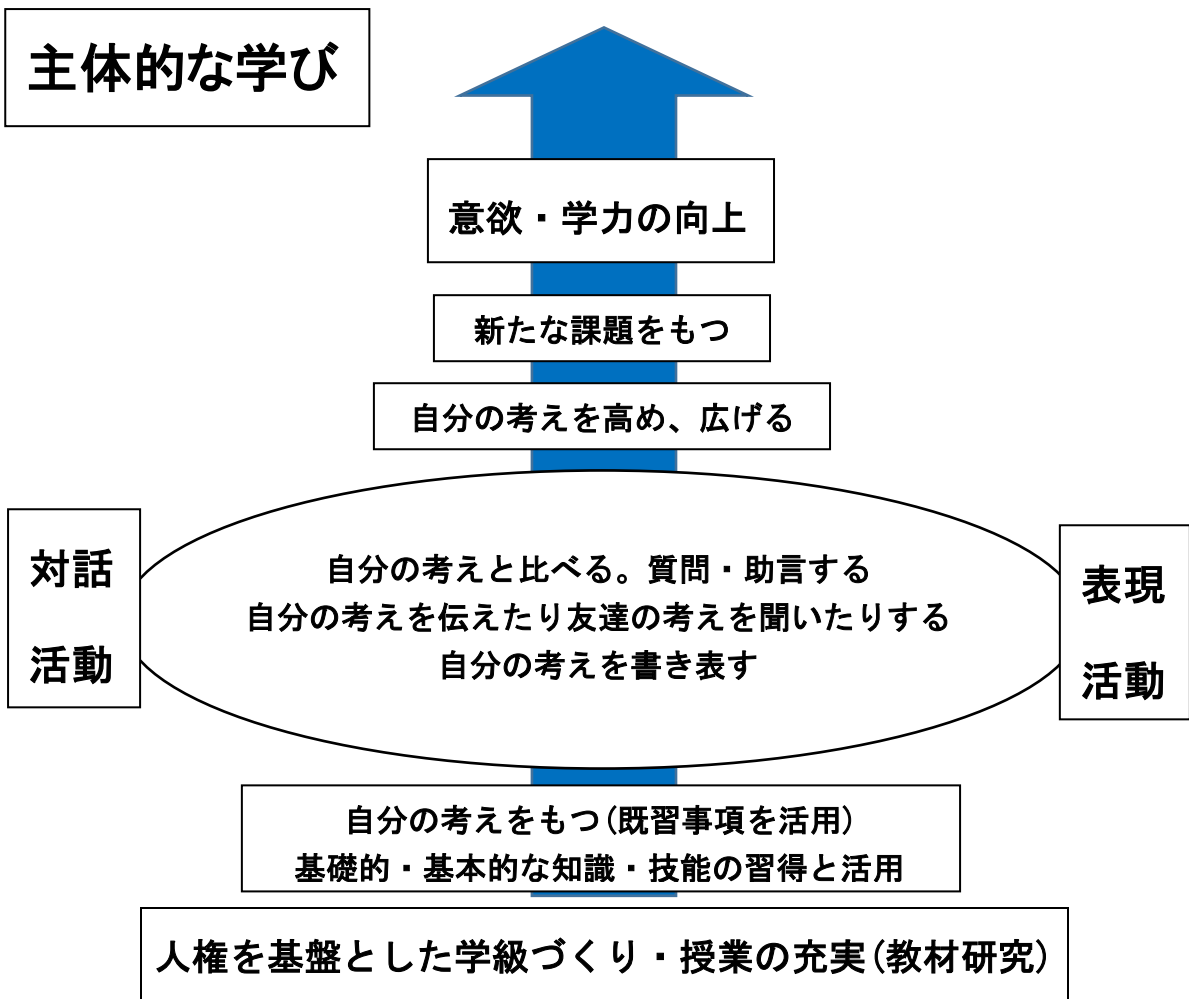
- ・ 算数コーナーの設置など校内の環境を工夫する。
- ・ 学習規律の確立、家庭学習の習慣化を図る。

7 研究の全体構想図

学校目標

『おいに学び やさしく まっすぐ伸びる』大山っ子の育成
めざす児童の姿

- 学ぶ意味や楽しさを感じる授業の創造
- 相手の立場に立って考えられる心の育成
- 目標に向かって最後まで諦めない態度の育成

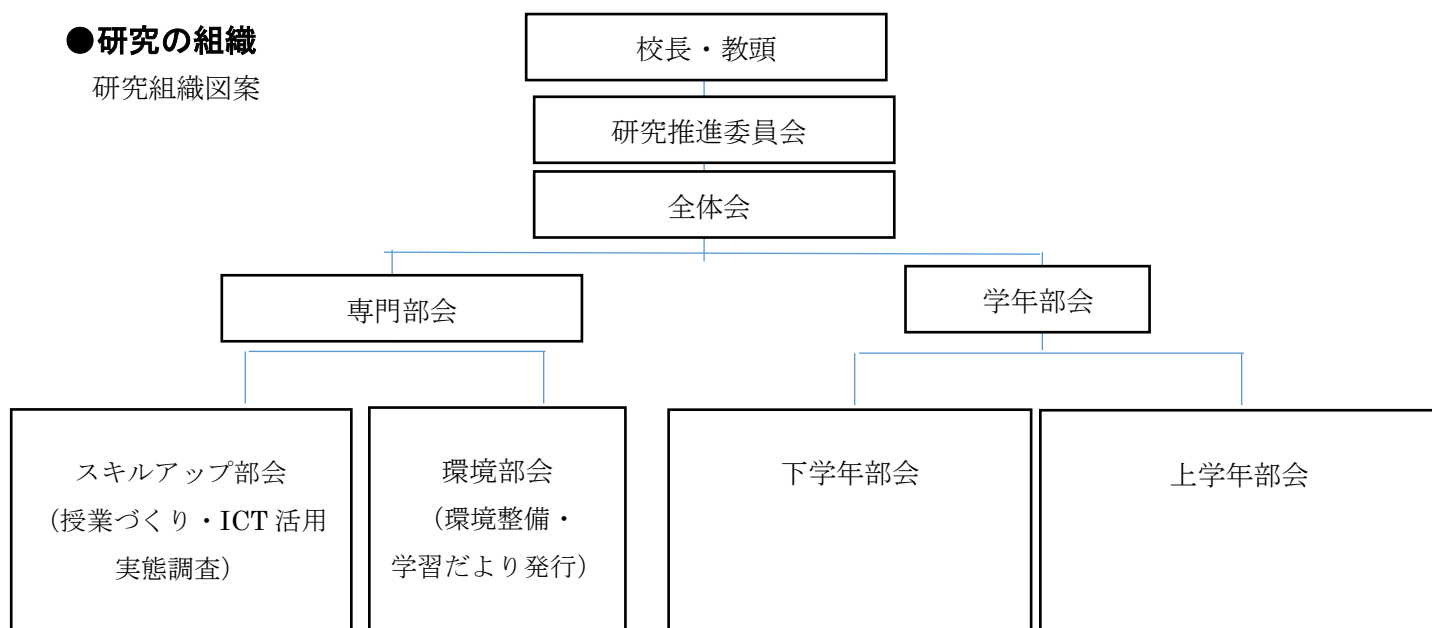


＜3校共通の取り組み＞

- ①学習指導要領を踏まえた学習活動を中心とした取り組み
- ②「授業づくりのステップ1・2・3」を活用した授業スタイルによる工夫改善
- ③単元（題材）を通して身に付ける力を明確にした授業づくりの活用
- ④対話活動を通して、自分の考えや集団の考えを広げたり深めたりする取り組み

●研究の組織

研究組織図案



●研究会と活動内容

研究組織

① 研究推進委員会

・校長、教頭、教務、研究主任、研究副主任

○研究の方向性や内容の決定、学年部会や専門部会で取り組む研究内容について検討・調整と実践に向けた研究の推進、研究内容の共通理解

② 全体会（全職員）

○研究の方向性、内容、方法等の検討と共通理解

③ 学年部会

算数科の授業実践

・授業づくりの視点に基づく算数科の実践・実践資料の保管・成果と課題のまとめ

④ 専門部会 ◎は部長

	スキルアップ部会	環境部会
ねらい	○児童の実態を把握し、授業づくりについての研究を進め、授業力向上を目指す。	○算数への興味・関心を高める環境の整備を行うとともに、家庭や地域との連携を図る。
活動内容	・指導方法の研究 ・授業づくりの研究 ・児童の実態調査	・算数コーナー ・学習だより発行 ・学習活動の掲示
部員		

10 研究の日程

月	日	曜日	研 修 内 容	
4	11	金	研究推進委員会 ①	研究主題について
4	16	水	第1回 校内研全体会	今年度の算数科の研究についての説明 専門部会（年間計画・役割分担など）
5	14	水	第2回 校内研全体会	研究授業の単元決定・専門部の活動
6	3	火	小中連携企画会議 （曲川小）	今年度の研究について・小中連携の取り組み 夏季研修会について
6	25	水	第3回 校内研全体会	柱について（学年部会）
7	2	水	提案授業	提案授業 3年1組
7	31	木	第4回 校内研全体会	専門部の活動
8	4	月	三校合同学力向上研修 会（小中連携）	全職員参加（西有田中学校）
8	21	木	第5回 校内研全体会 【講話】	【講師】大林 将呉先生（佐賀大学）
8	22	金	第6回 校内研全体会	研究授業についての話し合い（指導案紹介→学年部会）
8	22	金	研究推進委員会 ③	研究授業に向けて
9	3	水	第7回 校内研全体会 授業研究会①	全体研授業 6年1組 【講師】大林 将呉先生（佐賀大学）
10	1	水	第8回 校内研全体会	専門部会の活動
10	14	火	研究推進委員会 ④	研究発表会について
10	22	水	第9回 校内研全体会 学年部会	研究授業に向けて 研究発表会の打ち合わせ
10	31	金	第10回 校内研全体会 小中連携研究発表会	全体研授業 2年1組 【講師】大林 将呉先生（佐賀大学）
12	10	水	第11回 校内研全体会	研究のまとめ（学年部会）
1	6	水	第12回 校内研全体会	年間の成果と課題（専門部会）
1	23	金	研究推進委員会 ⑤	来年度の校内研について
2	4	水	第13回校内研全体会	来年度の校内研について

1 1 大山小における対話活動について

対話活動について

課題意識を共有し、目的をもって行わなければならない。

- ・既習事項等を振り返ったり、授業内容をまとめたりする**個人内対話**
- ・多様性を求めたり、効率性・汎用性等を図ったりする**他者との対話**

対話活動を取り入れる目的

- ・自分の考えをもたせる。
- ・考えをより高めさせる。(より論理的な思考を求める。)
- ・考えをより広めさせる。(より多様な考えをもつ。)

＊1 単位時間ですべてを網羅する必要はない。また、全員が同じ目的とも限らない。

対話活動

○1人でタイム（自力解決）個人内対話

- ・見通しの段階で、ある程度考える環境を整えておく。
- ・以前のノートを見返す習慣をつけさせておく。
- ・他者との対話に向けた発言練習の場にもすることも…。
- ・他者との対話後に、もう一度自分の考えを整理する場の設定も考えられる。
- ・図や式とキーワード・ポイントで一目でわかるような表現にする。

他者との対話について

- ・対話が1往復半以上を目指す。
- ・聞き手の反応の仕方も理解させる。

話し合いの時間・着地点・意義を示す

多様性を求める場合、論理性（よりよい方法の選択や表現方法の向上）分類、統合

○2人でタイム

- ・主に低学年で行う。中高学年においても、思考させたい場面で設定する。
- ・相互に答えや説明の確認をすることで、全員に説明の機会を与え、発表への自信がもてるようにする。

○グループタイム

- ・主に中・高学年で行う。低学年でも考えを広げたり、深めたりする場合に設定する。
- ・特に、自分たちで考えを分類したりよりよい解き方をまとめたりする場合などに行う。

○トラベルタイム

- ・自分の考えと同じ人や違う人を探して話し合うなどの設定を行う。
- ・特に、求める解決方法や表現等が学級に少数の場合やほぼ全員に理解を促す場合などに行う。

○ みんなでタイム （学級全体での練り合い、練り上げ）

- ・複数の解き方から（はやい、簡単、正確）な解き方（数理）を検討する際に行う。
- ・児童同士の対話活動が不十分であった場合、教師と児童との対話を基に、思考を深めさせる。
- ・思考を深める発問や問い返しを行い、児童の発言から授業を展開する。

学習過程における 対話活動の例

	学習活動
つかむ	1 問題場面を把握する。 問題
見通す	2 ~の見通しをもつ。 ○めあて ・発言を取り入れながら、児童と一緒につくる。 めあて ○見通し ・解決の方法や結果について、全員で共有する前に、児童が一人で考えたり少人数で話し合ったりする。 ・発表された見通しについて、その意味や妥当性を少人数で話し合う。
調べる	3 調べる。 ○1人でタイム ・基本は1人調べだが、最初から2人で相談しながら調べる学習もできる。
広げる・深める・まとめる	4 話し合う。 ○2人でタイム ・主に低学年で行う。中高学年においても、思考させたい場面で設定する。 ・相互に答えや説明の確認をすることで、全員に説明の機会を与え、発表への自信がもてるようにする。 ○グループタイム ・主に中・高学年で行う。 - 低学年でも考えを広げたり、深めたりする場合に設定する。 ・特に、自分たちで考えを分類したりよりよい解き方をまとめたりする場合などに行う。 ○トラベルタイム ・自分の考えと同じ人や違う人を探して話し合うなどの設定を行う。 ・特に、求める解決方法や表現等が学級に少数の場合やほぼ全員に理解を促す場合などに行う。 5 全体で話し合う。 ○ みんなでタイム （学級全体での練り合い、練り上げ） ・複数の解き方から（はやい、簡単、正確）な解き方（数理）を検討する際に行う。 ・児童同士の対話活動が不十分であった場合、教師と児童との対話を基に思考を深めさせる。 ・揺さぶりの場面を設定し、より思考を深めさせる。

	6 まとめる
	○まとめ （めあてに振り返らせ、児童と共に作り上げる） ・キーワードを出させ、自らまとめさせる。（主に高学年） ・一部穴抜き など
ふ り 返 る	7 適用問題を解く。 8 ふりかえりを書く。

1 2 力をつけるための具体的な手立て

全校の児童に次のような力をつけるために、具現化のための以下の手立てを行う。

必要な情報を選択できる力

解決方法を考え、選択する力

解決していく力

自分の考えを表現できる力

考えを高め広げる力

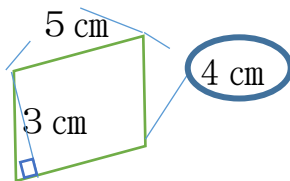
手立て① 条件(情報)過多、情報不足の問題に取り組ませる。

必要な情報を選択できる力

文が長い上に情報量が多い問題の場合、必要な情報を選択できていない。普段から、問題文の中から必要な情報を選ぶ習慣が身に付いていないことが考えられる。そこで、不必要な情報を与えたり必要な情報を考えさせたりすることを繰り返すことで、必要な情報を選択できる力をつけるようにする。

不必要な情報を入れた問題例

平行四辺形の面積



わり算

25人の子どもがいます。1チーム5人でチームわけをしていきます。分かれようとしたら、1人ぐ合がわるくなってほけんしつに行きました。そこで、1チーム4人にしました。ぜんぶで何チームできるでしょうか。

手立て② 問題文から必要な情報を選ばせる。

必要な情報を選択できる力

1年生は、簡潔に問題文を写し、大切な数や言葉に線をひくようにする。2～6年生は、問題文を読み、わかったこと（・）を2～3文で、尋ねられていること（◎）を1文で簡潔にまとめるようにする

どらやきのはこが4つあります。1つのはこには、どらやきが5こずつ入っています。みんなで何こになりますか。



・はこが4つ
・1つのはこに5こずつ
？みんなで何こですか。

手立て③ 学習のめあてを考えさせる。

解決方法を考え、
選択する力

教師が一方的に示すめあてでなく、問題や見通しで考えたことを使ったり、既習事項と比較させたりすることで、児童にめあてを考えさせ、教師が言葉を整理していく。めあては、学習過程の指針にもなり、まとめにつながるものなので、重点をおく。

6年単元
「反比例」

・既習事項

比例では、Xの値が、2倍、3倍・・・になると、Yの値も2倍、3倍・・・になる。

$$Y = \text{きまった数} \times X$$

・見通し

表(の数字)を縦に見る

表(の数字)を横に見る

XとYで式をたてる。

学習のめあて

表を縦や横に見て、変わり方のきまりを見つけ、式に表そう。

手立て④ 普段から、解決方法を選択させる。

解決方法を考え、
選択する力

既習事項の何を使えば解決できるか思考させる。

低・中学年までは解決方法の見通しの段階に、右の見通しカードを見せて、どの方法が解決しやすいかを考えさせる。始めのうちはその解決方法であれば、どのように書いていけばよいか例示する。高学年からは、自ら解決方法を選択するようにする。

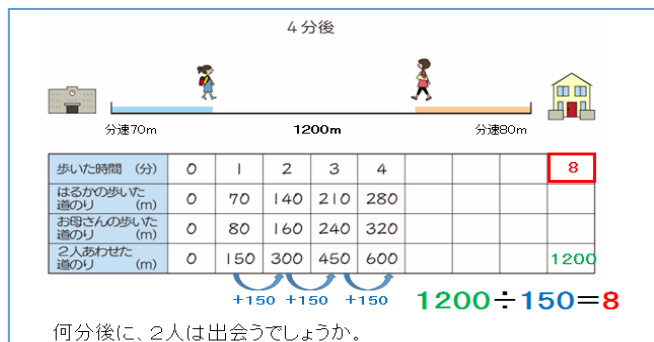


【見通しカード】

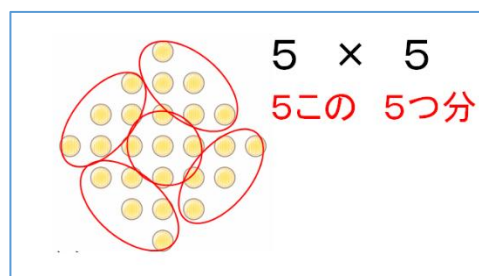
手立て⑤ 場面把握の補助としてICTを活用する。

解決していく力

授業の場面設定が複雑である際などに、デジタル教科書以外にプレゼンテーションソフトを使い、アニメーションを使って説明の効率化と可視化を行い、児童が前時までの学習のふり返りや本時の問題を把握しやすいようにするとともに、解決意欲の喚起と見通す力の向上を図る。



【6年「変わり方を調べて(2)」の前時までのふり返り】



【4年「式と計算の順序」の問題の説明】

手立て⑥ 既習事項の定着を図る。解決していく力

宿題等で、学習中の単元だけでなく、それ以前の単元も場合に応じて出したり、間違いが多い問題は繰り返し出題したりして定着を図るようにする。

6年宿題プリント vol. 71 組 ()

① 図3の平行四辺形の面積を求めるためには、どの長さを調べる必要がありますか。次の㉑から㉓までの中から2つ選んで、その記号をかきましょう。

図3

② 次の□にあてはまる数をかきましょう。

① □ 円の $\frac{5}{6}$ は 800 円 ② □ 秒の $\frac{5}{6}$ は 35 秒

③ □ kg の $\frac{2}{7}$ は 96 kg ④ 90 dL は □ dL の $\frac{15}{4}$

③ □にあてはまる等号や不等号をかきましょう。

① $\frac{5}{7} \times \frac{3}{4}$ □ $\frac{5}{7}$ ② $\frac{7}{12} \times 1$ □ $\frac{7}{12}$ ③ $\frac{10}{9} \times \frac{6}{5}$ □ $\frac{10}{9}$

④ 1～20までの素数を、小さい順にすべてかきましょう。

()

⑤ 次の問題を解きましょう。

1. 時速 55 km のトラックが、440 km の道のりを走る時間。

式 答え

2. 5 時間で 200 km の道のりを走る自動車の時速。

式 答え

手立て⑦ 板書整理の仕方を統一する。解決していく力

板書を 3 分割し、左に問題と見通し、中央と右には児童の意見や適用問題を書くことを統一する。中央に常に解き方を示しておくことで、適用問題の際つまずきがある児童が参考にしやすくする。解決方法が複数ある場合では、4 分割にしたり、適用問題を書かなかつたりして対応する。

⑥あまりをどうするか考えよう。 p107 ④・35人 ・1 <u>きやく</u>に4人ずつすわる。 ?何<u>きやく</u>いるか。 ⑤ 式 $35 \div 4 = 9$ あまり 1	① 35 ÷ 4 = 8 あまり 3 8 <u>きやく</u>に32人すわって、 あと1人あまっているから、 もう1 <u>きやく</u>いる。だから、 あわせて 8 + 1 = 9 9 <u>きやく</u>いる。 ③あまりを切り上げて、答えにすることもある。	⑦ ・11人のる。 ・1回に2人ずつのる。 ⑥何回ではこべるか。 式 $11 \div 2 = 5$ あまり 1 $5 + 1 = 6$ <u>6回ではこべる。</u>
--	--	---

手立て⑧ モデルとなる表現を示す。 自分の考えを表現できる力

説明する際の基準となるモデルを示すことで、表現することへの困難さを解消させるようにする。「まず」「つぎに」「だから」のような順序や結論を表す言葉を示す。また、例えばかきの学習であれば、「○Lの○つ分は○Lです。」のように、単元によっては具体的な説明モデルを示す。

4年生の指導例

(説明のポイント)

☆○この○つ分

☆順序を表すことば

☆～だから○○○になります。

手立て⑨ 対話活動の目的・視点を示してから話し合いに入る。 自分の考えを表現できる力

グループタイムのポイント

★図を使って、考え方を説明する。

→答えが出なかった人から、かいているところまでを説明する。

★友達の考えと同じ所・違うところを考えながら聞く。

→同じ考えが出た場合は、ほかの方法を伝える。

★分からないところを質問し合う。→納得いくまで、たずねる。

「なんでそうなるの?」「だって、・・・」「なるほどね。」

★自分の説明に付け加える。

→友達の意見を聞いて、付け加えてもOK。 ※自分の考えは消さない。

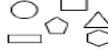
対話活動の目的・視点を明確に示し、児童の意識の統一を図る。

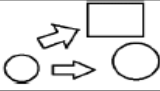
手立て⑩ 対話の型の活用。 自分の考えを表現できる力

低・中・高学年ごとに、話し合いの型で4つのパターンを示し、活用しながら徐々に自分たちなりの話し合いの仕方へと移行させていく。

グループタイムの進め方

まとめ型 	
めあて	それぞれの考えを整理して、グループとして一番よい意見にまとめる。
司会の進め方	1 今回は「・・・」について最後にいちばんよいものを(一つ)決めます。
	2 それでは、自分の考えを出してください。
	質問があれば出してください。
	3 ・わけ・もつとくわしく ・付け加え どの考えも正しいかどうか など
	私たちのグループの意見とするものを決めましょう。
	4 ・どの考えがいいと思いますか。 ・変えたほうが良いところはありませんか。 ・付け加えたほうが良いことはありませんか。など
	5 私たちのグループの意見は・・・・・・に決めます。

たくさん型 	
めあて	たくさん考えを出し、友だちのよい考えや自分が考えつかなかった意見をたしかめ
司会の進め方	1 今回は「・・・」についてできるだけたくさん考えを出してもらいます。
	2 それでは、自分の考えを出してください。
	質問があれば出してください。
	3 ・わけ・もつとくわしく ・付け加え どの考えも正しいかどうか など
	いいなと思う友だちの考え(や言葉)を発表してください。
	5 これから取り入れたい友だちの考え(や言葉)を書いておきましょう。

よりよい型 	
めあて	とも 友だちの考えを聞いて、自分が書いたものが さらによくなるように書き加えや修正をする。
司会 の 進め 方	1 こんかい 今回は、「・・・」について友だちの意見を聞いて、自分の書いたものがさらによくなるように書き加えや修正をしましょう。
	2 それでは、自分の考えを出してください。
	質問があれば出してください。
	3 ・わけ・もつとくわしく ・付け加え どの考えも正しいかどうか など
	4 自分の書いたものに取り入れたい考えや言葉を発表してください。
	5 友だちのいい意見や言葉を取り入れて、書き加えや書き直しをしましょう。

なかまわけ型 	
めあて	いろいろな考えを出し合い、 いくつかの仲間にまとめる。
司会 の 進め 方	1 こんかい 今回は、「・・・」についてみんなの考えを整理して、いくつかの仲間に分けたいと思います。
	2 それでは、自分の考えを出してください。
	質問があれば出してください。
	3 ・わけ・もつとくわしく ・付け加え どの考えも正しいかどうか など
	4 同じ仲間にできそうなものはどれですか。意見を出してください。
	5 それぞれの仲間のタイトル(題)を決めましょう。

手立て⑪ 自分の言葉でまとめさせる。 考えを高め広げる力

「まとめ」の段階では、本時の学習のキーワードとなる言葉を示したり、もう1度めあてに振り返ったりして、自分の言葉でまとめさせる。

昨年度の高学年グループ 成果と課題より 抜粋

○まとめでは、キーワードを提示して、自分の言葉で書かせるようにしてきた。それにより、自分の言葉で、学んだことをまとめることができるようになった。

手立て⑬ 「ふりかえり」の観点を示す。 考えを高め広げる力

ふりかえ～るコツ！！

- ① 今日の授業で大切なこと
- ② 自分が考えたこと
- ③ 友達のいいなと思ったところ
- ④ 分かったこと
むずかしかったこと
→次に生かしたいこと



- ・何についてどのように学んだかを書く。
- ・評価基準を全職員で共通理解し、児童にも伝える。

1 3 学びを支える環境づくり

①有田っ子スタイル（学習規律の統一）

有田っ子スタイル～学習準備～

次の学習の準備をしてから休み時間を行います。

授業が始まる2分前に席につきます。

ノートの準備をします。

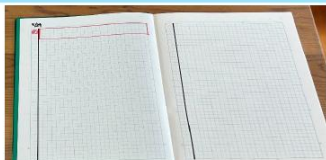
授業が始まるまでは、静かに待ちます。

ノートの準備の仕方

①下じきをしく

②鉛筆で線を引き、目付を書く

③赤鉛筆でめやめあての枠を書く



有田っ子スタイル～学習用具～

(小学校)

その①

勉強用のふでばこをもってきます

とがったえんぴつを5本

赤えんぴつか、赤ボールペン

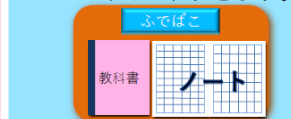
白い消しゴム

12～20 cm じょうぎ

勉強にいらないものは、持ってきません。

その②

つくえの上はせいりして、おきます。



その③

ノートに書くときは、かならずしたじきを使います。

②算数コーナーの充実

- ・長さや重さなどのを体感できるコーナーを設置し、量感を育てる。



- ・低・中・高学年ごとにクイズを設置し、算数の楽しさを感じさせたり、意欲を高めたりする。



II 學習指導案

第6学年1組 算数科学習指導案

令和7年9月3日（水）

1 単元名 「比とその利用」（啓林館）

2 単元とその指導

（1）単元について

これまでに児童は、第5学年「割合」において、ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係を比べる場合に割合を用いる場合があることについて理解し、日常の事象を割合でとらえ、日常生活に生かすことを学習してきた。

本単元は、学習指導要領算数科の第6学年C「変化と関係」における（2）に関わる内容である。学習では、既習の割合の理解をもとに、2つの数量の大きさを比較して割合を表す場合にどちらか一方を基準とせず、2つの数の組を用いて表すことのよさについて気付かせていくことがねらいである。

比の学習は、この後比例の学習へとつながり、比例関係を捉える際に用いる関数の考えを身に付けさせる意味でも重要な内容である。また、比は、日常生活の様々な場面で用いられており、比が使われている場面を探したり、比を活用して課題解決をしたりする活動を取り入れることが重要だと考える。

（2）児童の実態

児童の様子

① 算数の学習が楽しいですか

楽しい	どちらかという楽しい	どちらかという楽しくない	楽しくない
65%	35%	0%	0%

② 友達と自分の考えを伝え合うことは好きですか

好き	どちらかという好き	どちらかという好きではない	好きではない
71%	23%	0%	6%

③ 友達の考えを聞いて「なるほど」「同じだな」「ちがうな」と思うことはありますか。

ある	ときどきある	あまりない	ない
88%	12%	0%	0%

上記の意識調査①から、算数の授業に対して全ての児童が楽しんで取り組むことができていることが分かる。しかし、今回の研究主題である②の対話活動に注目していくと、伝え合うことが好きではないと答えた児童が6%いることが分かる。このことから算数の授業は、好きだが対話活動が苦手

な児童がいるという現状である。③より対話活動の中で友達の考えを聞いて学びがあると感じている児童が多いことから、本校の柱である考えを高め、広げ合う対話に向けて改善の糸口となるよう指導していく必要がある。

本単元における前提テストの結果は以下の通りである。

1. ① $2 \times \frac{4}{9} = \square$ ③ $5 \div \frac{1}{4} = \square$ ② $\frac{1}{2} \times \frac{2}{3} = \square$ ④ $\frac{3}{5} \div \frac{2}{3} = \square$	1. <u>分数×整数の計算問題</u> ①正答率 88% ②正答率 94% ③正答率 52% ④正答率 82% かけ算はおおむねできているが、わり算については正答率が低い。分数のかけ算・わり算を再度定着させる必要がある。
2. ①80mは,200mの何%ですか。□にあてはまる数や式を書きましょう。 ③リボンが 10mあります。お姉さんが 3、妹が 2 の取り分で分けます。線分図に表してみましょう。	<u>比べる量・もとにする量から割合を求める・線分図に表す問題</u> ①式の正答率 71% 誤答 24% 例: $200 \div 80 = 2.5$ 無解答 5% ②線分図 完全正答 30% 全体を 1 と見た場合の割合の誤答が多かった。 ③全体量 10m、姉 3 妹 2 の区切りを入れているもの 18% 割合=比べる量÷もとにする量が定着していない児童 36%であった。5 年生時、問題解決の際には数直線図・線分図・関係図などの図を描くことを経験している。しかし、まだまだ児童にとっては、量の関係を線分図に表したり、全体を 2 量に分けて表したりすることが難しいようである。本時の比例配分を考える学習でも線分図をもとにすると解決しやすいことから、自力で線分図がかけられるように指導していくことが大切である。
3. ①30kg の 20%は□kg です。 ② 7 L は□L の 20%です。	3. <u>比べる量・もとにする量を求める問題</u> ①正答率 71% 誤答 24% 例: $30 \div 20 = 1.5$ 無解答 5% ②正答率 52% 誤答 24% 例: $7 \times 0.2 = 1.4$ 無解答 24%

4. たいきさんの学校の6年生150人のうち運動クラブに入った人は90人、文化クラブに入った人は60人でした。 ①運動クラブの人数は6年生全体の人数の何倍ですか ②運動クラブの人数は文化クラブの人数の何倍ですか。	4. <u>文章から比べる量・もとにする量を読み取って割合を求める問題</u> ①正答率 64% 誤答 24% 例：150÷90 無解答 12% ②正答率 66% 誤答 18% 例：60÷150 無解答 18% 問題を解くために関係図をかいて解いている児童がほとんどいなかった。文章から比べる量・もとにする量を読み取れていない児童が約25%余りいて、2・3・4の問い全てに共通して誤答か無解答であった。自力解決が難しい児童がいるので、全体で割合について復習しておくとともに、本単元でも個別に指導していく必要がある。
---	---

(3) 指導にあたって

指導にあたっては、第5学年「割合」での学習と関連付けて指導することから2つの数量の割合を簡潔に表せる比のよさを味わわせ、理解することをねらいたい。また、「等しい比」の学習では、伴って変わる2つの数量の関係を捉えていく活動も大切である。さらに、比を利用して問題解決を図る際には、これまでの既習の知識や技能（本単元では「比の値」「比の性質」）を用いて考えさせていく。また、自分の考えたことを言葉や式、図、表、などを使って表現する活動、自分の考えを表現したものを使って説明する活動を通して、互いの考えを比較・検討し、関連付けて考えさせる。

本時では、児童が楽しみにしている修学旅行の場面を取り上げる。教科書では、全体の数量が小数になっているが、3：2の比に分けると全体が5になることに着目して問題を解決させることに重点を置くために整数を取り上げ、実生活でも活用できるようにしたい。

見通しの段階で問題から分かることや問われていることに着目させ、線分図を考える時間を設けることで前時の問題との違い、2つの部分の量が分からないが全体量は分かることに気付かせたい。また、「グループタイム」で自分の考えと友達の考えの共通点、相違点を話し合わせることで線分図や式の意味に着目させたい。また、全体量「3000」円を「5」等分した内の「2」つ分というように、それぞれの考えの数字の意味を意識し、対話させることでより深い学びへと促したい。

3 単元の目標

- ◎ 比について、その表し方や比の値、等しい比の意味を理解し、割合が比で表された問題を解決することを通して、割合の見方・考え方を深めるとともに生活や学習に活用しようとする態度を養う。（総括目標）
- 比の意味と表し方を理解し、比を用いて表したり、等しい比を見つけて比を簡単にしたりすることができ。【知識・技能】
- 数量の関係に着目し、比と一方の量からもう一方の量を求めたり、全体の量をきまった比に分けたりする方法を考えている。【思考・判断・表現】
- 比に進んで関り、ふりかえりを通して比を用いて数量の関係を表すことのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

4 指導計画

小単元	時間	主な学習活動	形態
比	1	- 単元の課題をつかむ 単元の課題 比を使って、学校の高さを調べよう！ - 比を使った割合の表し方、比の意味《：、比》	T T
等しい比	2	・比が正しいことの意味、比の値の意味《比の値》	T T
	3	・等しい比の性質《比を簡単にする》	T T
	4	・数量が小数や分数で表されたときの比と比の値	T T
練習	5	・練習	T T
比を使った問題	6	・比を使った割合の問題	T T
	7 (本時)	・全体を決まった比に分ける問題	T T
まとめ	8	・たしかめよう、振り返ろう、やってみよう	T T

5 本時の学習（7／8）

（1）本時の目標

与えられた比をもとに、全体の大きさにあたる割合をとらえて、分けたときの量を求めることができる。

【思・判・表】

（2）展開

過程	学習活動	教師の働きかけ(○)と 評価	
		T 1	T 2
つかむ	1 問題場面を把握する。 修学旅行におこづかいを 3000 円もっていきます。家族へのお土産代と自分に使う分を 2 : 3 の割合にしたとき、家族へのお土産代は	○問題に印を付けることで数量や問われていることに注目させる。	○問題場面を把握することができるように、電子黒板に表示する。
	めあて 家族へのお土産代が いくらになるか考えよう。		
見通す	2 見通しをもつ。 ・考える方法 線分図、等しい比、比の値など	○前時の問題と比較し、全体の量が分かっていること、部分の量が 2 つとも分からないことに気付かせる。	○児童の発言した内容を板書する。

調 べ る	3 自力解決に取り組む。 (1人でタイム) 予想される児童の解決法 ① $2:5=X:3000$ $2 \times 600 = 1200$ ② $3000 \div 5 = 600$ $600 \times 2 = 1200$ ③ $3000 \times \frac{2}{5} = 1200$	○全体の量に着目させるために、線分図をかいて、分かっていることや目盛りをかきこみながら考えるよう促す。 ○図や式で解決できたら、ほかのやり方を考えるよう伝える。	○ヒントカードを用意し、児童の実態に合わせて、個別に指導する。
	4 自分の考えを説明する。 (グループタイム)	○友達の考えの共通点と相違点を話し合うよう声を掛ける。 ○お互いの考えを納得できるまで説明し合うよう声をかける。	○グループタイムのポイントを示す。 ○話し合いが円滑に進むよう、班の様子を見ながら机間指導を行う。
広 げ る ・ 深 め る ・ ま と め る	A：線分図をもとに、全体とそれぞれの比を考え、説明することができる。 B：線分図をもとに、全体とそれぞれの比を考え、求めている。 →線分図にかかせて、3：2に分けると全体が5にあたることをとらえさせる。		
	5 全体で話し合う。 (みんなでタイム)	○それぞれの考えを発表させながら、式の中に出てくる5、2、 $\frac{2}{5}$ の数字に着目させる。 ○全体の量を1とすると、お土産代が全体のどれだけにあたるのか、線分図と関連付けながら考えさせる。	○児童の発言をもとに、ポイントとなる数字や言葉を板書していく。

	6 まとめる	○線分図と関連させながら、 $3000 \times \frac{2}{5}$の示す意味について考えさせる。 ○それぞれの方法を振り返り、本時のポイントを確認する	○児童の発言をもとに板書を行う。
	まとめ 線分図をもとに、全体とそれぞれの比を考えると求められる。		
ふり返る	7 適用問題を解く。	○一つの方法で解けた際にはほかの方法でも解いてみるよう、声をかける。	○お土産代と自分の分が5 : 1で全体が6であることを理解して解けているか、評価する。
	8 ふりかえりを書く。	○本時の学習を通しての振り返りを具体的に記述するよう伝える。	○振り返りのポイントを掲示する。

第2学年1組 算数科学習指導案

令和7年10月31日（金）

1 単元名 『かけ算（1）』（啓林館）

2 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領解説算数編における第2学年の内容A「数と計算」（3）に示された指導事項のうち、乗法の意味と1位数と1位数との乗法の計算の指導のために設定された単元である。

本単元では、新しい演算として乗法を学習する。まず、数図ブロックによる操作を通して『1つ分の数のいくつ分』という乗法の意味を理解し、それを『 $\times$ 』の演算記号を用いて式で表現することを学習する。その際、乗法の意味に基づいて、答えは同数累加（ $4 \times 3 = 4 + 4 + 4$ ）で計算できることもおさえる。そして、身の回りから乗法の式で表せる場面を見つける活動を行い、乗法の意味の理解を確かなものとしていく。さらに、連続量を対象として、倍という表現についても知る。乗法の意味を学習した後、九九を構成していく。九九の構成においては、かける数が1増えるとかけられる数だけ積が大きくなるという性質に気付き、それを利用して九九を構成することが大切である。九九を忘れた時や、九九を超える時にも使えるような意味理解をすることで、今後の乗法の学習や倍概念に繋げていく重要な単元である。

- 本学級の児童は、学習に積極的に参加しようとする姿勢が見られ、教科書の問題や教師の発問に対して、学級全体で何か答えようとする雰囲気が出来上がっている。立式や単純な計算の答えなどは、約9割の児童が手を挙げ、発表ができるようになってきている。しかし、式の意味や考え方の説明を求めると、答えられる児童は限られてきて、1人で説明をしようとする、言葉が出てこなかったり、既習事項のどれと関連付ければいいのか分からなかったりする児童が多く居ることが現状である。本単元は、児童がこれから出会う数学的な見方・考え方の一つの出発点として、大変重要な位置づけであるため、九九を暗唱できるだけの表面的な習得ではなく、乗法の意味や性質を理解していくことをねらう。

本単元における単元の系統性から見るレディネステストを行った結果が以下の通りである。

問題	正答 (%)	誤答 (%)	無解答 (%)									
①①ふくろにあめが入っています。 何こずつ入っていますか。 	96.3	3.7	0									
②あめは ぜんぶで何こありますか。	92.6	7.4	0									
②①ケーキを2こずつ組にして、○でかこみましょう。 	85.2	0	14.8									
②2こずつの組は、いくつできましたか。	74.1	25.9	0									
③ケーキは、ぜんぶで何こありましたか。	96.3	3.7	0									
③ □にあてはまる数をかきましょう。 ① <table border="1" data-bbox="226 1942 766 2018"><tr><td>2</td><td>4</td><td>6</td><td></td><td></td><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	2	4	6			12				96.3	3.7	0
2	4	6			12							

②	5	10			25			40		92.6	7.4	0
---	---	----	--	--	----	--	--	----	--	------	-----	---

この結果から、児童の中に「1つ分の数」や「いくつずつ増える」という基本的な数の概念は、ある程度備わっていることが分かった。しかし、大問2の②で「2こずつの組」がいくつあるかを正しく数え切れていないことや、大問2の①で無回答が多いという実態も見え、そこから本単元での学習を通して、図や絵を使う意識をさせることが効果的であると感じた。そのため、本単元では、学習の全期間で「アレイ図・式・答え・説明」を必ずセットにさせ、説明にも図や絵を使わせることで、単純な暗記としての九九だけでなく、乗法の意味理解に繋がるような学習活動を仕組んでいくこととする。

- 指導にあたっては、乗法の基本的な知識となる『1つ分の数のいくつ分』というキーワードを常に児童に意識させ、数図ブロックや絵を活用しながら表す具体的操作と、アレイ図や表を通して九九として理解し唱えるという抽象的な学習を行き来させることで、式の意味から理解できる児童を育成していくことをねらいたい。

児童の学習への動機づけと、乗法の意味理解をつなげるために、日々の学習指導に加えて対話活動、振り返り活動に着目して学習活動や環境構成を仕組むことが必要であると考え。

まず、対話活動に関しては、これまで隣の席の児童と『2人でタイム』を行わせ、自分の答えや考えを共有させた。すると「他の考えを知りたい!」「自分の答えが合っているか、もっと確かめたい!」という考えが生まれ、自然と児童同士のペアが合体して、3～4人で話し合いを進める姿が見られるようになった。それを受けて、2学期からは対話活動を仕組むための話し合いを『グループタイム』とし、本校での対話活動の型として用いている『低学年 2人でタイムの進め方』シートを活用しながら、3人グループで、より多くの考えを共有できるような学びの環境を設定する。1人で問題と向き合う『1人でタイム』、学級全体で情報共有を行う『みんなでタイム』と合わせて、複数の学習形態を組むことで、児童同士の学びを相互的に刺激したい。

次に、振り返り活動では、本校の校内研究で用いている『ふりかえ～るコツ!!』を、本学級の児童の実態に合わせて観点を細分化した『わたがしです(分かったこと、楽しかったこと、頑張ったこと、知らなかったこと、出来るようになったこと、すてきな友達 の6観点)』を掲げ、毎時間の学習を『自分』を主語にして振り返るよう指導を行う。単元のゴールと、単元全体の振り返りを一覧にすることで、単元を通して情報の意味や性質に気付かせることをねらう。

本単元の動機づけとして、生活科の「1年生をおもちゃランドに招待しよう」という学習と関連付ける。1年生がおもちゃランドで使うコインの数やプレゼントの数を、速く、正確に準備するために乗法の学習を活用できるようになろうという課題設定をした。

3 単元の目標

【統括目標】

乗法九九について、その意味や式について理解し、ブロックを操作する活動を通して乗法になる場面をとらえて式にかいたり、かける数が1増えたときの積の増え方に着目して2から5の段の九九を構成したりすることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。

【知識・技能】

乗法の意味やその計算の仕方を理解し、2から5の段までの九九を暗唱したり、乗法の適用場面を式に表して答えを求めたりすることができる。

【思考・判断・表現】

ブロック操作をもとに、1つ分の大きさや積の増え方のきまりに着目し、九九を構成している。

【主体的に学習に取り組む態度】

乗法九九の構成に進んで関わり、ふり返しを通して累加の簡潔な表現として乗法の式に書くことや九九のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。

4 指導計画 (全 16 時間)

小単元	時数	内容
導入 単元のとびら	1	- 乗法の学習の動機づけ ◎単元の課題 おもちゃランドをせいこうさせるために、ひつようなコイン、プレゼントの数をかけ算でもとめよう！ 『1 つ分の数のいくつ分』で表すこと
第 1 次 いくつ分と乗法	2 ～ 3	- 乗法の意味、乗法の式と答えの求め方 - 乗法が適用できる場面の理解 - 算数探しの活動
第 2 次 何ばいと乗法	4	倍の意味とその見方、2 倍や 3 倍、1 倍
第 3 次 乗法の九九	5 ～ 14 (本時)	2, 3, 4, 5 の段の九九の構成、唱え方と練習、適用題 - 基準量が後に示された乗法の問題 (本時)
終末 学びのまとめ	15 ～ 16	- 練習 - たしかめよう、ふりかえろう

5 本時の学習 (14/16 時間目)

(1) 目標

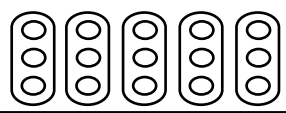
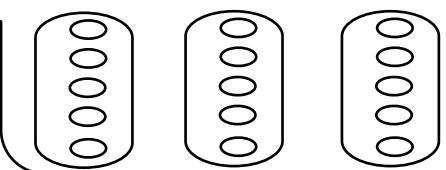
○1 つ分の数のいくつ分に着目して、乗法の式がどうなるかを考え、説明することができる。

【思・判・表】

(2) 展開

※【IWB】電子黒板【ES】実物投影機

過程	学習活動 (吹き出し：予想される児童の反応)	指導・支援 (○) と 評価 (◆)
つかむ ・ 見通す	1. 問題場면을把握する。 今日の問題 お店に、おきゃくさんが 3 人います。1 人に 5 まいずつコインをくばります。コインは、ぜんぶで何まいいりますか。 2. 式を確認する。  式は、3×5 になるに なると思います。  ぼくは、5×3 になる なると思いました。  あれ、式がちがうよ。	○本時の問題を音読させ、分かっていることや聞いていることがどれかを確認して、鉛筆で印を入れさせる。 ○コインの枚数が聞かれていることを確認し、どうすれば 1 年生に正しく渡せるかイメージさせ、式を書かせる。 ○考えた式を共有して、2 種類の式が出ることに気付かせる。 ○二つの式から、先に答えを確認し、答えが 15 枚になることを確認する。

	どちらも、答えは15になりますね。では、どっちの式を使ってもいいでしょうか？ だめだと思います。 ◎めあて しきのいみを考えて、せつめいしよう。	○なぜ同じ問題なのに、式が2種類出たのかを問い、式の意味に着目しないといけないという意識をもたせる。 ○本時では、どちらの式を使ったらかけ算の意味として正しいかを考え、説明できるようになるという意識を高める。
調べる② ・広げる・深める	3. 式に合う図を描く。 (1人でタイム) 4. 3×5と5×3のどちらが正しいか考える。 (グループタイム) わたしは、1人分の数が3で、いくつ分の数が5だと思いました。だから、3×5にしました。 ぼくは、逆に1人分が5で、いくつ分が3だから、5×3になるとと思いました。 アレイ図で比べてみよう。お客さんは3人来るから、3人に5枚ずつ配らないといけないよね。 あっ、それだとぼくの式で描いた図はお客さんが5人いるから逆になっているみたい！ 5. 式と、その説明を共有する。 (みんなでタイム) 3×5だと思いました。図で描くとこうなります。 	○「1人でタイム」を設け、問題場面に合うアレイ図になっているか考え、図・式・答え・説明を書かせる。 ○グループタイムでは、自分と友達の考えを共有し、図や説明を比較しながらどちらの式が正しいか話し合うように促す。 ○グループタイムの際、自分の考えを消さないこと、友達の良い考えをメモすることを伝える。 ○ブロックや図を使う際は、「いくつ分」がイメージしやすいように「お皿」を使って具体的に考えることができるようにする。 ○どのように考えたか説明させる。 ○3×5の考え方を先に出させ、アレイ図を描いたときに3×5と5×3の、どちらの描き方が題意に合っているかを考えさせる。【IWB】【ES】 5枚ずつ3人に配るので、5×3になるとしました。 

	この2つを比べると、どっちが問題の意味に合っていますか？ 3×5の図は、5人のおきやくさんが来ることになるから、意味が変わります。 アレイ図を見ると、1つ分の数が5まいで、それを3人に配るので、3つ分で5×3になります。 5は、1つ分の数ですか？いくつ分の数ですか？	○どちらが正しいと思うか問い、その理由について隣の人と再度話し合わせる。 ○児童の発言を繋いで、式の意味を押さえていく。 (5×3の5とは「1つ分の数」であること、3は「いくつ分」であること、15は「全部の数」であること) ○「1つ分の数」が5なのか、3なのかをもう一度確認し、アレイ図と照らし合わせながら5×3と3×5のどちらが正しいか押さえさせる。 ○式を作って終わりにするのではなく、「1つ分の数が5で、3つ分あるので、式は5×3になります。」と言葉での説明もできるように確認する。
ま と め る ・ た め す	6. まとめる。 ◎まとめ かけ算のしきは 1つ分の数×いくつ分 を考えて書く。 7. 適用題を解く。 教科書の適用題（お菓子の箱の問題）を解く。 おかしのはこが5はこあります。 1つのはこには、おかしが4こずつ入っています。  おかしは、ぜんぶで 何こ ありますか。	○本時の学習で「1つ分の数のいくつ分」がどれかを確認してから、立式するためには式の意味を考えることが大切であることを確認する。 ○本時で扱ったような、基準量が後に示された問題を1問提示し、図・式・答え・説明の4点セットで答えるよう伝える。
	◆評価規準 問題文の数字で、どれが『1つ分の数』や『いくつ分』になるかに着目して、かけ算の式を正しく書いたり、式の意味を説明したりしている。(評価方法…適用題) A：正しく立式し、図と言葉で『1つ分の数のいくつ分』を説明することができる。 B：問題場面を図で表し、式にすることができる。 →図で表したり、説明の仕方に悩んだりする児童については、ヒントカードを与えて一緒に考える。	
ふ り 返 る	8. ふり返りを書く。	○「わたがしです」の視点を与えて、本時の学習でどんなことが身に付いたかを振り返らせ、ワークシートに記入させる。 ○「5まいずつ」や「1つ分の数が」等のキーワードに着目できるよう、本時で行った学習の流れを確認しながら振り返りを書かせる。

Ⅲ 学年部・専門部の まとめ

～算数の学習における成果（○）と課題（△）～

① 対話活動について・思考を深める発問や問い返しについて

【上学年】

- 意見を言うだけの一方通行の対話活動ではなく、納得するまで問い返しをするなどしながら対話活動をすることができた。
- 対話活動をすることで自信をもって発表することができる児童が増えた。
- 対話活動のポイントを提示することで共通理解ができていた。
- △ 児童の発言に対して、「なんで?」「どうして?」と問い返し、線分図や式、問題に戻って考えることができたよかった。
- △ グループタイムの発表順は、分からない子からすると良い意見に消されずみんなが意見を伝えることができると感じた。

【下学年】

- アウトプット（自分の言葉に）させることで思考の深まりが見られた。
- 「どうしてそう思う?」「何で?」などを常に考えさせる発問や問い返しができるようになった。
これを「教師→児童」ではなくて、「児童同士」で自然に尋ね合えるような児童を育てたい。
- △ 友達の考えと比べる→同じところ・違うところを探す。
学年の実態に合わせながら繰り返ししていくことで、思考を深めていきたい。
- △ 「まとめを自分で考えさせる」ことの積み重ね（○○の言葉を使ってまとめてみよう!）
→自分の言葉でまとめる活動など、アウトプットの機会をつくる

② 単元を通した活動・ふりかえりについて

【上学年】

- 単元を通した振り返りカードを活用することで単元のめあてに向けて積み重ねや自分の成果や課題が見える化できている。
- 単元を通しためあてを「修学旅行に関すること」など身近な問題に設定することで単元を勉強する目的意識をもって取り組むことができた。
- △ 身近な問題にするなら問題を解いた後に自分事に戻す時間があったのもよかった。

【下学年】

- 振り返りをよく書けている子を紹介することで、意欲の向上や振り返りの充実に繋がった。
- 単元を通した課題設定→ゴールが明確になっていることで児童の意欲の向上に繋がった。
- △ クラス全員の振り返りを一斉に見えるようにする工夫などがあるとよい

③ その他

- 導入のスマールトークでだれもが発表しやすい雰囲気作りができていた。
- △ かけ算や通分などの基礎的な部分を復習する時間がたりないため定着していない児童がいる。
⇒ 復習をする時間の確保が必要
- △ 板書に子どもの名前がいっぱいあると、さらによかった。

全体の成果と課題

- 対話活動を仕組むことで、アウトプットの機会を確保することができた。
- 児童同士で考えたことを伝えたり、質問をしたりすることで、自分の考えを深めたり新たな考えに気づいたりすることができた。
- 「どうして?」「なんでそう思ったの?」などの問い返しをすることで、児童が考える場を設けた。
→教師から児童への問い返しだけでなく、児童間でのやり取りの中で、このような問い返しをできる児童を育てていきたい。
- △あらかじめ決めていた対話活動以外でも、児童の反応に応じた活動を仕組む臨機応変さにも意識をもう少し向けたかった。
- △型にはまりすぎない授業もしていきたい。
- △「分かるようになりたい」「解いてみたい」「話したい」と、児童が思えるような授業づくりの工夫が必要。
→「できた」「分かった」など学ぶ楽しさから、学習内容の定着につなげる。

スキルアップ部会

1 ねらい

児童の実態を把握し、授業づくりについての研究を進め、授業力向上を目指す。

2 活動内容

- ・対話活動の充実に向けて（発問の、児童の思考を深める（2人でタイムなど）
- ・ふりかえりカードの充実
- ・算数アンケートの実施・分析

3 実践内容

授業に関する資料作りについて

○算数

対話活動の型を示したカードを全校児童に配布した。授業内容によってどの型で話し合うか確認することで、目的意識をもって対話することをねらいとしている。

【成果】

○対話活動の型を確認して対話をすることで、目的意識をもって対話を活動することができた。

【課題】

○低学年では、相手に伝えるので精一杯で対話活動カードの活用が難しかった。

○対話活動では、考え方を伝えることはできたが、聞き手の反応が薄かったり内容を理解できていなかったりする場面が見られた。→「対話を通して知りたいこと」「聞くときの着目点」を意識して児童が聞くことができるような発問の工夫が必要。

対話活動の目的・視点について

グループタイムのポイント

★図を使って、考え方を説明する。

→答えが出なかった人から、かいているところまでを説明する。

★友達の考えと同じ所・違うところを考えながら聞く。

→同じ考えが出た場合は、ほかの方法を伝える。

★分からないところを質問し合う。→納得いくまで、たずねる。

「なんでそうなるの?」「だって、・・・」「なるほどね。」

★自分の説明に付け加える。

→友達の意見を聞いて、付け加えてもOK。

※自分の考えは消さない。

ふりかえ～るコツ！！

- ① 今日の授業で大切なこと
- ② 自分が考えたこと
- ③ 友達のいいなと思ったところ
- ④ 分かったこと
むずかしかったこと
→次に生かしたいこと



○ふりかえりの観点を示し、「自分が」を主語にして、何についてどのように学んだかを書くことを意識させた。

単元を通した振り返りカード

(10)。「比とその利用」(教科書P128～138)

名前()

大きなめあて 比を使って、校舎の高さを調べよう！

自分のめあて 比についてよく理解しよう。

時間	授業の流れ	今日の授業の感想
1	比の意味と表し方を知ろう！	比の表し方や読み方を学んだので良かったです。問題の先に書かれているものから比の数字をまかなうといけないことがわかりました。
2	(比の値)を求めたり、比が等しいかどうか調べよう	比が等しいかどうか分かるためには比の値を求めると分かるということがわかりました。等号を使って表せることを学びました。
3	(等しい比)の性質を理解しよう	等しい比の性質を見つけるとき、2つのやり方があることがわかりました。できるだけ小さい整数の比にするのはとても簡単です。700点をとれて良かったです。
4	小数や分数を使って比を表そう	小数や分数の比でも、等しい比の性質を使ったら簡単に表すことができました。たてずのそおさんやしょうとさんのやり方がおもしろかったです。
6	比と一方の値から、もう一方の値を調べよう	私が練習問題と解くやり方は、最初5年生レベルだったので、比の値などを使ったやり方をしなくてはいけない人だなと思いました。次からが本番です。
7	それぞれの値を求めよう	今日は、比の値を使って解くことができました。最初2つの比の値をだしていたので、次は全体をだしてから解こうと思いました。

学習したこと ふりかえろう！ (O・O・Oで書きま)

この学習で勉強した内容が、よく分かりました。

まだよく分かったり、自分で考えたりしながら、学習できました。

たくさん友達と話し合ったり、発表したりできました。

最初は比の勉強(簡単だと思っていたけど)今は少しむずかしいと思ったので、もっとがんばらないといけないと思いました。7のときに自分のまちがいをクイズタイムで気付いたので良かったです。

○単元のゴールを日常生活に結び付けたものにすることで、児童が自ら学ぶことに興味をもたせた。

算数科に関するアンケート

全校児童に実施 （1回目…6月実施 2回目…12月実施）

アンケート結果

	R 6	R 7
	1回目	2回目
算数の学習に楽しさを感じている児童	85.5%	90.4%
自分の考えを書いていると答えた児童	80.4%	88.0%
友達と考えを伝え合う活動が好きな児童	81.2%	85.6%
友達の考えを聞いて「同じだ」「違うな」 など自分が思ったことを伝えている児童	78.2%	90.4%

アンケート結果の考察

2年間を通して、対話活動を通した成果が出たと考えられる。教師も対話活動を意図的に仕組むことでアウトプットの機会を確保することができた。アウトプットの積み重ねが成果に繋がったと考えられる。また、対話活動で目指す姿を学年の実態に応じて設定することができた。

高学年・・・児童同士で学び合う姿が多く見られた。自分で理解してから伝えることで学力向上にも繋がった。

中学年・・・思考を深める発問をすることで、教師が話す時間を減らし子ども達のアウトプットの機会を多くとった。

低学年・・・2人でタイム→3～4人でのグループタイムへと、実態に合わせて対話の幅を広げることができた。

環境部会

1 テーマ

環境の整備、家庭・地域との連携

2 活動内容

・算数コーナー ・校内掲示計画 ・学習部だより発行

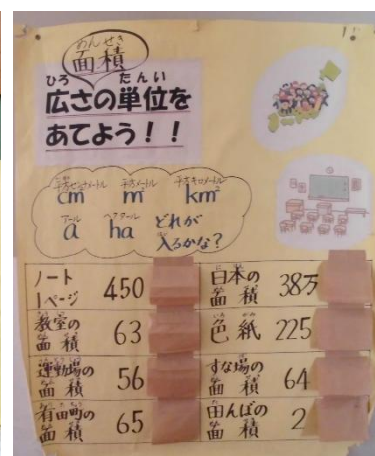
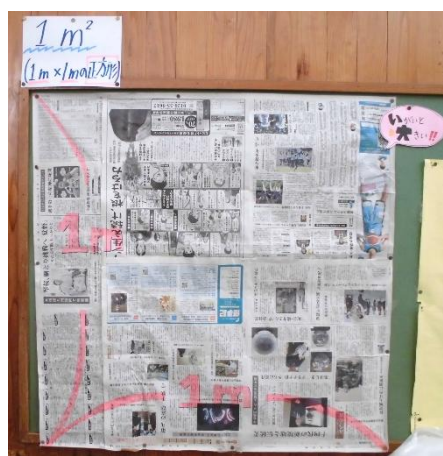
3 実践内容（成果○と課題△）

算数コーナー

○ 授業で学習したことを生活につなげ、量感をつかむことをねらいとしていくつかのコーナーを設けた。「かさ・重さコーナ」では、単位の違いを確認できる掲示物と実際に持って確かめることができる実物を廊下に置き、児童がいつでも触れられるようにした。

「面積コーナー」では、児童にとって身近なものを掲示し、量感をつかむことができるようにした。また、身近なものの面積の単位についてクイズ形式で掲示した。

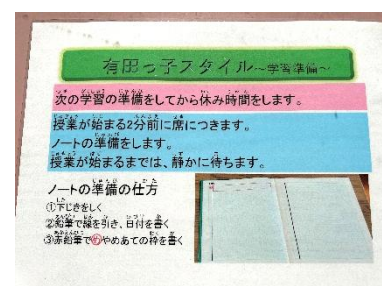
△ 掲示場所を児童に周知することができていなかったため限られた児童しか意識して見たり、体験したりすることができなかった。



校内掲示

○ 昨年度有田っ子スタイルの見直しをした掲示物を作成し、小中連携で取り組んでいる2分前着席が浸透しつつある。

○ 今年度もおもしろ算数コーナーを児童が進んで取り組めるように解答を募集する箱を設置した。正解者を全校集会等で紹介し、より意欲を高められるようにした。



学習部だより発行

○ 読解力の重要性など、家庭に啓発することができた。

△ 学習道具（特に、筆箱のなかみ）の整備をもっと家庭の方へ啓発していく必要がある。生活部の「記名週間」とも連携していきたい。

算数ノート・自学ノートコーナー

○ 低学年

初めて自学に取り組むので A4 サイズの自学プリントを用意し、書く場所や書く内容が分かりやすいようにした。内容は、既習事項や児童の興味があることを自由にまとめさせた。

○ 中学年

授業の中で興味をもったものや、季節に合わせた内容の調べ学習に取り組ませたり、漢字や計算など自分が苦手としている学習の復習として取り組ませたりしている。

○ 高学年

毎週目的をもった取り組みにするために、「自学ノートの取り組み方」を配布した。児童の意欲を高めるためにコメントを入れることで価値付けした。

学習だより

大山小学校
令和7年8月25日
第3号

◎読解力とは…文章を読んでその内容を理解し、解釈する力のことです。
夏休みは、宿題の付けや声掛け等協力ありがとうございました。学校では、夏休み中に学力向上に関する研修会を行いました。本校児童の読解力の1つに読解力があります。読解力を高めるためには、**①読解力②文章を正しく読む力**が必要です。今回は、読解力を高めるための取り組みと家庭でできるおすすめを紹介いたします。
①読解力を身に付けるために、国語では次のような読解力を鍛えて学習しています。

低学年	中学年	高学年
身近なことを表す 語句の量を増やす	気持ちや性格を表す 語句の量を増やす	思考に関する 語句の量を増やす

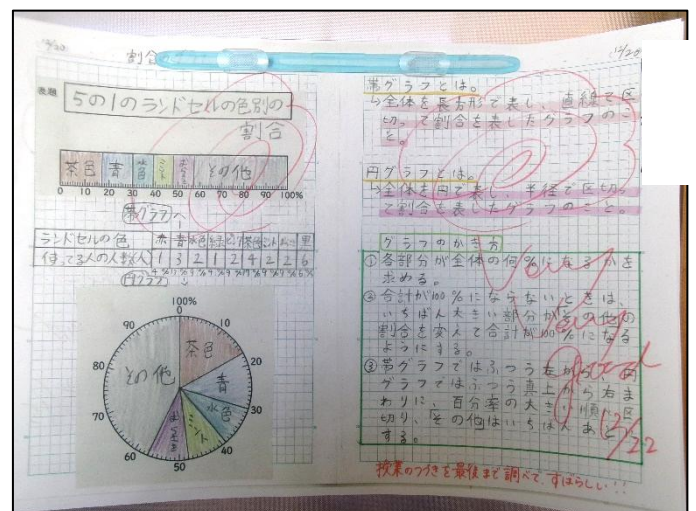
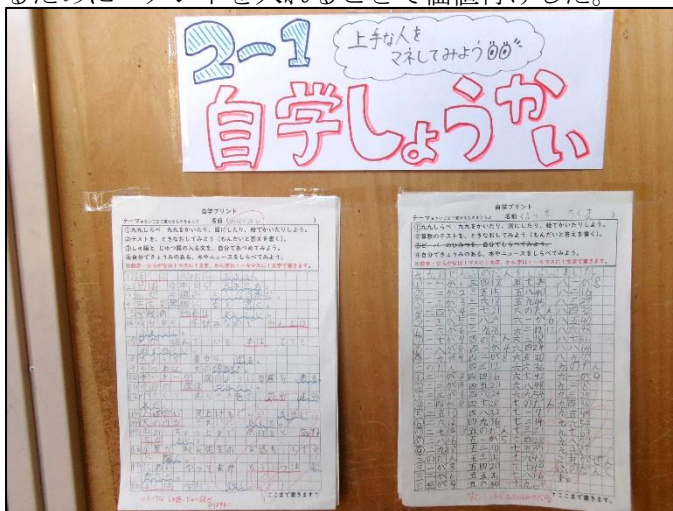
これを実現するために、教科書や図鑑等の読み込みを本などで、児童の発達段階に適した読解を通して読解力を高めることを目指しています。

②文章を正しく読む力を身に付けるためには、主語と述語の関係を、文と文とのつながりに気をつけて読む必要があります。大山小学校でこれらを確認していきたいのは「文法文」のつながりに気をつけて読む力です。実際に例題を載せているので、お子さんと考えてみてください。

あやかさんは毎日、楽しみにしていた動物園に行く予定だった。でも、第1の日は雨が降って、お母さんに「今日は出かけるよ」と言われた。がっかりしたあやかは、ふてくされて部屋にこもった。そこへおじいちゃんから電話があり、「うちにおいて。結果もあるし、一冊にごはんを食べよう」と言ってくれた。あやかはしぶしぶ出かけた。おじいちゃんの家には、いとこのまなみも来ていて、3人で動物園の絵本を眺めたりうさぎをたたりした。あやかはだんだん楽しい気分になっていった。家に帰ると、あやかにははるかの話をきいて、「今日は楽しかったよ」と言った。
(Open AI (2024) GPT-5 (June24))

Q. あやかさんが行った理由はなんですか。

※この問題は、内容を正しく読み取る問題です。正解は「動物園に行けなかったから」となります。
①②を身に付けるために有効なのが、読書です。しかし本を読むだけでは読み込みになることもあります。
【読解力を高めるための具体的な方法】
★読書や新聞を読む（国・算・科・理、一度に多くの知識を受け取る）
★視点を変えて読む（どんな視点で読めば、どんな視点・読み方・読み方で読めると）
★読書を通して、自分の考えや感情を表現する（主人公の行動への賛否・喜ばしいことなど）
このような工夫を入れ、ご家庭でも取り組んでみてください。



自学ノートの取り組み方

自学ノートとは、自主学習ノートのことをいいます。
自分で、勉強したいこと、調べたいことを見つけて、ノートに書き込みます。
好きな教科書、辞書、図鑑、インターネット、テレビ、ラジオ、新聞などを使って調べます。
下は、自学のテーマをのべておきます。
この中から5つ選んで、毎休みの日に取り組みます。

①	新聞記事のニュースをひとつ、見聞きや思ったことを書く。
②	今までに間違えた問題、苦手な問題を解く。
③	ことわざ・慣用語・四字熟語・慣言・川柳などを書く。
④	国語のメニューを考え、作った感想を書く。
⑤	漢字の読み方、書き順、その漢字を使った言葉を書く。
⑥	図鑑、本、新聞で調べたことをまとめて書く。
⑦	英語や韓国語などの国の言葉を書いて書く。
⑧	アルファベット(大文字・小文字)を書く。
⑨	3学期の学習内容を学習する。
⑩	絵日記を書く。出来事だけでなく、感じたことや思ったことを書く。

※基本、1冊に1文字です！

【おすすめ】
① 日記を書く。 ② 今日のめあてを書く。 ③ ノートにぎゅぎゅと学習する。 ④ ふり読みを書く。